組織の奥義

（今回のお題）

# 日本一小学生バンドの指導者に学ぶ、業績マネジメント

大人が思う以上に誇りがある。
指導者が、部下とか手下とか
思うなんてとんでもない。

**鈴木忠雄氏**
小学校教諭

茨城県常総市立水海道小学校教諭。クラス担任をもつ傍ら、3〜6年生の有志60余名により構成される「水海道小学校金管バンドクラブ」を率い、『小学校バンドフェスティバル』『マーチングバンド・バトントワーリングコンテスト』の2大大会で連続して全国大会出場、3年連続小学生の部日本一を達成。1970年生まれ。小・中・高校で吹奏楽部、大学で一般バンドに所属。

## ■ 自分たちで考え動けるようになって、初めて組織として成り立つ

サッカーや野球と違って、合奏・マーチングはメンバー全員がレギュラーなんです。新入部員でも何かしらのポジションが与えられる。だから一人ひとり責任を自覚することがすごく大事。全員で音合わせする日に吹けないまま来たら徹底的に叱られますよ。「あなたがこの部分ができないせいで音楽にならない」と。パートリーダーにも、○○クンが吹けないのはあなたの責任、と振ってしまいます。厳しいようですが、自分たちで考えて動けるようになれば、小学生でも組織というものが成り立つんです。私が練習に出られなくても、リーダー同士で今必要な練習を考え後輩たちを指導してますよ。メンバーはメンバーで、休み時間も必死に練習してますしね。

## ■ テーマが共有できれば、目標はメンバー自身で見つけられる

自分は「日本一」を目指せという指導はしません。大会一つひとつ、努力を積み重ねて最終的に日本一になれるわけで、指導者として目標にすべきものではないと思う。大事にすべきは「聞いてくださるすべての方に感動を」という自分たちのバンドテーマなのです。だから練習はしつこいです。納得できる音や演技になるまで何十回でも繰り返します。それでもついてきてくれるのは、彼らには夢が見えているから。先輩たちと同じ全国大会のステージに上りたい、たくさんの人に聞いてもらいたいと、自分で目標を作っているのです。大人が思う以上に誇りをもっている。だから指導者が、自分の部下とか手下とか、武器のように思うなんてとんでもない。あなたたちがいるから、先生も大会に出させていただいてます、ありがとう。そう思ってるんです。

Text = 荻原美佳　Photo = 佐藤 敬